

同窓会だより

●発行
千葉県立船橋高等学校同窓会
 〒273-0002 千葉県船橋市東船橋6-1-1
 ホームページ <http://homepage2.nifty.com/funaobog/>
 E-mail funafuna55@nifty.com

●印刷 (株)サラト
 姫路市北条宮の町172番地
 TEL 079-284-1380

題字／小原天籟先生



高校の思い出

母校に生物の教員として35年振りに戻ってきましたが、全然変わっていないところ、全く変わってしまったところがあり、懐かしくもあり寂しくもありました。

まず全然変わっていないのは、本館、南館、武道館や体育館。一度下がってから上り直す中央通路。廊下の個人ロッカーや生物室の黒い角が丸い机。まだ昔のまま現役でした。逆に変わってしまったのは、道路を挟んで宮本中の隣にあった25mプール(硬式テニス部のコートになっていました)。また、ちばな祭のお化け屋敷で賑わった講堂も跡形もなく、代わりに屋根付きのプールやセミナーハウスが体育館脇にできていて、軟式テニス部のコートが90度回転して横向きになり、球技大会でバレーボールをした屋外バレーコートや体育館裏にあった部室棟はもうありませんでした。

南館の裏には工芸室や美術室、コンピュータ室や視聴覚室がある新館ができていました。そういえば、35年前は学校にコンピューターなどなかった時代でしたね。

私は、入学直後の役員決めのジャンケンで負けてしまい、想定外の?応援委員になりました。当時は本館の屋上で太鼓を叩きながら練習していました。最初は1年間だけでよいと思っていましたが、なぜか応援委員は一度なると3年間抜けないことを後で知りました。現在の上グラウンドで行っていた3学年3クラスずつ縦割りの赤・白・青の三色対抗の体育祭では、大きな応援看板に絵を描いて設置し、当時流行っていた「こまわり君」を描いた覚えがあります。野球の応援では必死

高山 雅夫

になって応援団旗を支えていたこともありました。ちなみに応援団旗は、今年同窓会の御尽力で新しい団旗にして頂きました。ありがとうございました。

私は、部活動は陸上部に所属していましたが、当時は運動系部活動は本館に宿泊まりして合同合宿を行っていました。食事は全員食堂で食べ、テトラポットのコーヒー牛乳を飲んでいました。OBの方々が差し入れをして下さったりして楽しい合宿でした。夏合宿最後の中長距離恒例である上グラウンド100周というとんでもない練習も足の裏全体に血豆をつくりながらやり遂げたことも懐かしい思い出です。

当然ですが校歌のメロディは昔のままで、赴任した直後の入学式では、懐かしすぎて思わず歌ってしまいました。いつでもさすがに口ずさむことのできる、愛着ある素晴らしい校歌です。これからも歌い継がれていって欲しいものです。

平成23年着任 昭和52年3月卒

同窓生 & 在校生 (平成26年10月1日現在)

同窓会会員総数 32,586人
 名簿登録数 32,258人
 内全日制26,235人、定時制5,001人、恩師1,022人

在校生

全日制 男598人 女419人 計1,017人
 定時制 男154人 女109人 計263人
 教職員 全日制80人 定時制31人 計111人
 内同窓生13人



会長挨拶

同窓会会長
子安啓司(昭和43年生)

本年度より金子安雄前会長から同窓会会長を引き継ぐことになりました。昭和43年卒業生です。前会長にも増してご指導ご協力を賜りたく存じます。創立70周年時に船橋高校校長として赴任された三橋衛先生に、偶然お目にかかり、以来微力ながら同窓会公務に係ってきました。荷は重いのですが、100周年へ準備だけでも進められればと思います。

さて、平成25年金子会長挨拶でふられたように東京オリピックと同じ2020年が、母校の100周年に当たります。学校サイドで周年行事が実行され、同窓会として協力することとなります。この学校へのご協力以外に何か出来ないかと考えております。同窓会理事の皆様に限らず、在校生、同窓生より意見提案等を頂き、これぞという記念行事が出来ればと思います。在校生或いは進学生生の為の船高同窓会英基金設立やOBを講演者として迎え進路指導に役立てていると聞きますが、政治経済スポーツ文化芸術各分野に活躍されている卒業生と在校生とのネットワークづくりなどの提案が寄せられています。月一でも様々な分野エキスパートOBが話を出来る機会と場の確保、具体的に同窓会館の設立と書けないのが残念ですが、皆様のご協力を頂き、新時代にふさわしい同窓会のありかたを考えつつ、100周年を迎えたいと願います。よろしくお願いたします。なお、千葉県教育行政予算によるので、多くの同窓生が嘆願しても実現出来るものではありませんが、文科省のSSH指定高校として、千葉県で先端を走るにふさわしい校舎で100周年を迎えられたいと夢想する次第です。



校長挨拶

校長 田山正人

同窓生の皆様には、日頃、本校の教育活動に対し格別のご支援を賜りましてありがとうございます。この場をお借りして心からのお礼を申し上げます。

さて、近年の少子化の影響により千葉県全体では生徒数が減少していますが、本年度は全体制の普通科が1クラス増となり、8年ぶりに在籍生徒数が一千名を超えました。夜間定時制も県内では最大の在籍生徒数となりました。こうしたことから、本校を志望する地域の皆様の期待にに応えるとともに同窓生の皆様の期待に応えるためにも、船高のよき伝統を引き継ぎ、更なる発展を目指していかなければならないと考えています。

また、平成26年度の4月には、文部科学省からスーパーサイエンス・ハイスクール(SSSH)の指定を新たに5年間受けることができました。2期目にあたることから、本校の教育活動の活性化はもとより、県内の小中高大の連携を進め、より一層の理数教育の充実に取り組みを進めたいと考えています。



ご挨拶

副校長 植草茂生

四月に副校長として千葉市教育委員会から着任しました植草と申します。よろしくお願いたします。

今回の異動のさい、「実は私も『船高』出身なんだよ。」「娘が『船高』を出てて。」「息子が『船高』に在学しています。」「と沢山の上司、知人、元同僚から声をかけていただきました。

た。皆さん「船高」に誇りと愛着を持っておられます。「伝統校っていいなあ」と思うと同時に、その「強み」を垣間見た気がしました。また、六月の同窓会理事会や八月の総会に参加させていただいた折には、その団結力と和やかさに、羨望すら感じました。

同窓会が全定合同で組織され、定時制の入学式やPTA総会などの行事に同窓会の多くの方々に参加していただき、定時制担当として大変ありがたく感じています。



着任の御挨拶

教頭 谷口哲也

本年四月に教頭として着任いたしました。よろしくお願申し上げます。歴史と伝統と実績のある船橋高等学校への着任で、重責を感じながら日々の仕事を務めております。

同窓会の皆さまには、日頃から本校の教育活動に対して熱心にご支援を賜りますことに心より感謝を申し上げます。

八月の同窓会総会に初めて出席させていただきました際には、同窓生の皆様の、本校への熱い気持ちに直接触れることが出来ました。そして、本校創立百周年に向けて着実に準備を進み始める委員会等の活動計画等を見直し、改めて本校の更なる発展の一助となるべく気持ちを新たにいたします。

また、本校は今年度、文部科学省よりSSH(Super Science High School)の再指定を受け、探究活動に力を入れた理数教育の研究開発に改めて取り組むことになりました。これは、今後の世界が必要とされる生徒の資質・能力の育成に関わる大事な取り組みの一つと考えております。引き続き、これまでの伝統を大事にしつつ、校長の指導の下、新しい事柄を踏ま



ごあいさつ

事務長 角川房子

本年四月に着任いたしました。事務長としての経験の少ない私が、県内屈指の伝統校である船橋高等学校に勤務するという事で、身の引き締まる思いとともに、大変なプレッシャーを感じております。

着任して最初に驚いたのは生徒会活動です。事務長は、公費・私費会計ともにしっかりと掌握し指導することを求められていますが、生徒会役員、特に会計がしっかりと行っていることです。私達事務職員同様(若しかするとそれ以上)の会計管理をしています。また、たばな祭に向けて、文化委員会の活動も活発で素晴らしい、さすがに伝統のある船橋高等学校だと感じました。

部活動も、加入率一九％が示すとおり、運動系文化系を問わず、全日制・定時制ともに全国大会出場の一部もあり生徒達が頑張っていると感じます。クイズ研究会の二人が高校生クイズ決勝に出場し、「関東公立の雄」船橋高等学校の存在を知らしめてくれたことは嬉しい限りです。

本校には同窓会の会員でもあるOB職員が大勢います。そのOBの思いが、現在の船高生が母校の校風と伝統を受け継いでいくための一助になつていくと思えます。

県の財政は、学校耐震化対応に追われ、学校への予算配分はまだまだ厳しい状況ですが、本校の教育環境条件の整備のために、微力ではありますが、今までの多種多様な学校経験を生かして尽力していきたいと思っております。

同窓会の皆様には、日頃より格別のご支援を賜っております。引き続きますますのご支援をよろしくお願いたします。

平成27年

『春の同窓会』ご案内

実行委員長

田中 幸栄(昭和48年卒)

平成二十七年二月十一日(水)「春の同窓会」の実行委員長を務めます昭和四十八年卒業の田中幸栄と申します。

在学中は合唱部に所属し、頼もしい先輩、素敵な同期、才能豊かな後輩部員に恵まれ、野尻先生のご指導の下、毎年関東大会に出場したことが自慢できる思い出です。

その他、ちばな祭、体育祭、寒稽古、宮中のプールでの水泳大会、学食のカレー、購買のパン、帰り掛けのポツポツ、ひよこの解剖、県予選ベスト8の野球部、市立船橋より強かったサッカー部、習志野高校に勝った剣道部等、色々当時が思い出されます。

この様な思い出を共有するであろう四十八年卒業生は、五十歳を迎える平成十六年に第一回目の学年同窓会を開催して、約百五十名が参加しました。

その後も各クラス幹事を中心に、四年毎に学年同窓会を開催して、毎回百二十名以上の参加があり、学年としてのまとまりは強力です。

今回も幹事学年として力を合わせ、楽しく温かな同窓会の実現に向けて着々と準備を進めています。

プレアトラクションは、船橋市出身のKUSUKEさんによるマジックショーと、例年とは趣を変えた舞台を用意致しましたので、早めのご来場がお勧めです。(KUSUKEさんは私達四十八年卒業生のご子息です。)

年に一度、世代を越えて三百名あまりの同窓生と恩師が一堂に会する「春の同窓会」に皆様お誘い合わせの上、多数のご来場頂きます様お願い申し上げます。

船高の歴史(一九)

一九四七年の農繁期休暇問題

小川 信雄(元千葉県立千葉高校 教諭、一九六三年卒)

県立船橋高等学校の旧制中学校時代の一九四七(昭和二二)年五月、校内では農繁期休暇をもうけるかどうかについて議論がおこった。当時、職員会議や生徒の間では新制高校への移行準備、職員の組合活動、生徒の自治活動など、いわば「疾風怒濤」(Sturm und Drang)とも呼ばれる時代といつてよいだろう。当時、日本社会の「食糧難」は深刻でインフレションも激しい勢いです。アジア・太平洋戦争への動員によって破壊された生活の再建が大きな課題であった。前年の四六(昭和二一)年五月一九日には大規模な「食糧メーデー」がおこっている。

五月一七日(土)校長を始め二名の「出職」(注：出張のこと)などによる欠席があったが、職員会議は開かれた。議題の一つは「職員生活殊に食糧事情解決如何」で「耕地一人当り一、二畝(せ)歩(畝は段(たん)の十分の一で一畝は三〇歩(ぶ)で約〇・九九(アール)入手を図り各人耕作するか：或は農家父兄に諮り委託栽培(全校六〇名と仮定、一畝歩位宛実費学校負担)の方法」などが提案されたが、結局、校長も不在であるので、継続して審議することとなった。

六月一七日(火)の職員会議では議題「(生徒)農繁期休暇について」では各職員からさまざまな意見がだされた。それを紹介すると「あまり農家の子弟が少ないためむづかしい、夏休みととりかへては如何(い)かが、延ばすとも短縮は困難、単に農家の手助けといふよりも児童(注：生徒のこと)の健康状態を見ても或は家庭の事情からも休みは望ましい、父兄の反響も考へねばならない、単に生徒だけの問題でなく職員の問題でもある、生徒も相当疲労して

る、遅配(注：食糧配給の遅れのこと)がつづいてゐる間だけでも」などときわめて真つ当なものであったが、また審議は継続となった。六月二十四(火)の職員会議は「五年石橋外九名(自治委員(注：生徒会役員のこと)参加)して開かれた。職員会議への生徒参加には職員から「悪例を残す」「甘すぎて逸脱になる」などの保守的な意見もだが、生徒は連日におよぶ全校自治委員会の討議を経た決議文「六月二五日より一週間休校、その後短縮授業実施を要請」をだしていたこともあり、職員側は生徒の意見は聞いて、審議の席上では生徒を外させることとなった。

その(生徒)自治委員たちの説明は「昨日自治委員会の空気は休暇短縮相半ばなり、短縮は約三分の二、休暇三分の一にて、休暇は食糧事情切迫により登校不可能の者又農家子弟は農繁期手伝の為、又自宅研究等により有効に過す心算である」、また「昨日と同様なりしも本日の全校自治委員会に於ては事実切迫登校困難なる者一部と謂ひ相当数あるを以て之を無視し短縮にするは情に於て忍びず、結局休暇に落着せり」

「困難の程度説明するは自家の恥を曝すことである」とのべている。生徒のなかには昼食の弁当の準備にも困る者もいたようで、切実な食糧不足を訴えるものであった。

しかし職員側の生徒への質問や意見ははなはだ的外れなものや時代錯誤にちかいかいものがあった。たとえば「好学生は短縮授業を希望し勉強嫌の怠者は休暇を主張し結局好学生が怠者にかされたに似て聞いたが、若しこれ真実とすればこれは過去の軍国主義よりも大なる過誤を犯すことになる、私共には諸君の親の心と同じく師心があるのだ、生徒の言ひなり通りに休

暇をやらせたといふ風に物笑ひになる様なことは教師としては出来ない」などという発言もあった。農繁期休暇の要求は怠者の生徒であり、このような要求は軍国主義の過誤よりもひどいもので、休暇を認めれば物笑いになるなどとの教育的な配慮さえも欠けた発言があった。これは時代錯誤の保守的というよりも権威主義的な「封建的な」職員の意識のあらわれであった。

しかし鍛練科(現在の保健体育科)の職員からは「体育月次(つきなみ)統計によれば増加すべき月に拘らず体重胸囲(増加月四、五、六、七、八、九退下、一〇↓増加)退下しつつあり」という発言があった。さらにある職員は「千葉中(注：現県立千葉高校のこと)(先生方の中に困難者あり、よつて生徒に諮りたるに休暇としたり)と本校は逆である、即ち生徒側の要望あり、その困難者を無視して休暇を与へずとなると教育上困る問題が起ると思ふ」と発言した。ここにいたつて前述の権威主義的な時代錯誤な発言をおこなつた職員は沈黙したようである。

ここにいたつて校長は審議をまとめ、「農繁期休暇について」第一期は六月二六日より月末まで、第二期は考查(注：定期試験のこと)後七月九日より二日間(考查は三日一八日)、第三期は以後一九日迄短縮授業(夏休みは従前通り)と提案して、「二同賛成」となり決着した。当時の「戦後改革(あるいは占領改革)期」という状況を考慮しながら「農繁期休暇問題」を考察することは現代の社会意識と比較しても意味があることと思われる。(本稿の記述は『千葉県立船橋高等学校七〇年史』編纂の際に収集した資料によつて)



木暮太一氏
(平成8年卒)

〈経歴〉
慶應義塾大学経済学部を卒業後、富士フィルム、サイバーエージェント、リクルートを経て独立。相手の目線に立った伝え方が、「実務経験者ならではの」と各方面から好評を博し、現在では、企業・大学などで多くの講演活動を行っている。フジテレビ「とくダネ!」に木曜日コメンテーターとしても出演中。

経済ジャーナリスト、(社)教育コミュニケーション協会 代表理事

主な著書
『カイジ「どん底からはいあがる!」生き方の話』
『カイジ「勝つべくして勝つ!」働き方の話』
『カイジ「命より重い!」お金の話』
『僕たちはいつまでこんな働き方を続けるのか?』
ほか 累計120万部

こんにちは、96年卒の木暮太一と申します。ぼくは船高を卒業した後、慶應大学経済学部に進学、その後は富士フィルム、サイバーエージェント、リクルートを経て、2009年の10月に独立して仕事をしています。今は、2つの会社を経営しながら、経済ジャーナリストとしてニュース解説、書籍出版、その他、朝の情報番組のコメンテーターをやっています。

ぼくはサイバーエージェント勤務時代に、子会社の出版社(アミーバブックス)を立ち上げ、事業責任者として活動しました。この時に、『実録鬼嫁日記』『渋谷ではたらく社長の告白』などベストセラーを出すことができ、また出版業界全体を学びます。その経験を活かして、今度は自分で出版社を立ち上げる傍ら、作家として

年間5、6冊の本を出版しています。

現在、出版業界はおせじにも活気があるとは言えず、本を書いてもほとんど売れません。しかしぼくは出版社側でもあるので、どんな本がどの店舗で、どのくらい売れているかのPOSデータを見ることができ、またこれからどんな本が売れていきそうかもわかります。

かつての仕事があつてこそ「今」です。そのように言うのと、ぼくはずいぶん戦略的に仕事を選んでるように思われます。しかし実際は、自分でもびつくりするほど「行き当たりばったり」でした。最初の富士フィルムに入ったのは本当に偶然でしたし、サイバーエージェントに転職をする時も、転職を斡旋する会社のスタッフが薦めてく

る会社を受けただけ、という何とも受け身な選び方をしました。

しかしその場その場で与えられた仕事に全力で向き合った結果、すべての経験がつかつて、ぼくの血となり肉となつていきます。最近、どんな仕事をするべきかを悩んでしまう大学生が多いようです。それは、「正解」があるはず、と思込んでいることが原因だと思えます。これからの時代を生きるための正解があり、そこを

目指したい、でも、その正解がわからずに悩んでいる、という印象を受けます。でも正解なんてないんですよ。正解があるのは、大学受験までです。ご承知の通り、社会に出たら「正しい答え」は用意されていません。仮に「正しい答え」を出せたとしても、それが正解かどうかは誰も教えてくれません。自

分でも「もつといい答えがあるかも」という想いがなくならないでしょう。

よく「会社で行っていた仕事とあまり関係がないことをやっているね」と言われますが、その通りですね。ただ、ぼくはこう考えています。約9年間の会社員時代は、社会人としての基礎力を身につける時間、そして今はその基礎を活かして自分が挑戦したいビジネスに取り組み時間です。

ぼくがこれから力を入れて取り組んでいこうと思つているのは「説明力」を広める活動です。ぼくは、自分で立ち上げた一般社団法人教育コミュニケーション協会です。「説明力養成講座」を企画・主催しています。

ぼくは中学2年生のころから「どうすれば難しいことをわかりやすくできるだろう?」と考え続けてきました。これまでも難しい経済学理論をわかりやすく解説する本を書いたり、経済ニュースを初心者がわかるように、噛み砕いて伝えていきます。そんな活動を見て、「第二の池上彰」と言ってくれる人も増えてきました。

ぼくが作つている「説明力養成講座」というプログラムでは、「わかりやすさ」を3つに分類しています。ひとつは、混沌とした情報をスッキリ、コンパクトにして伝える「わかりやすさ」。2つ目は、難しい言葉や出来事を、初心者にもわかるように噛み砕いて伝える「わかりやすさ」。そして

3つ目は、相手が興味を持つ、相手がピンとくるように伝える「わかりやすさ」です。

これら3つの「わかりやすさ」は、それぞれ完全に別モノですし、身につけるべきスキルも別です。人それぞれに合わせて、必要な「わかりやすさ」を身につけてもらえるよう、プログラムを提供しています。

ぼくは「わかりやすさ」は社会を変える」と思っています。学校の授業がもつとわかりやすくなれば、子どもたちはより勉強を理解でき、より勉強が楽しくなるでしょう。もつと積極的になつていくはずですよ。「わかりやすさ」で将来の人材が変わります。会社で、上司・部下間の報告・指示がもつとわかりやすくなれば、圧倒的にストレスが減ると思います。「わかりやすさ」で会社も変わります。プライベートでも同様です。

コミュニケーションや情報提供は、現代社会を生きていく上で欠かせない要素です。しかし、学校では「わかりやすく伝える方法」を教えませんし、社会に出てから各自が体当たりで学ばなければいけません。それでは効率が悪いですし、正しいスキルが身につけません。

ぼくが企画している「説明力養成講座」を通じて、世の中に「わかりやすさ」の大切さと、「わかりやすく伝える方法」を広めたいと強く考えています。

恩師探訪

佐藤 豊 先生



船高は、私の教職生活の最初の赴任先であり、教員のいろはを教えていただいた場所です。大学出たての新米が八年間お世話になりました。四十年近く前のことですので想い出は断片的ですが、興奮と冷や汗とともにフラッシュバックします。当時の行動を顧みると、先生方、生徒の皆さん、保護者の皆様に大変なご迷惑をかけたことばかりで、まことに汗顔の至りであります。

大学のバレーボール部の大先輩であります伊井先生の後任としてご推挙いただき、卒業したばかりの私が船高の始業式・新任式に登壇したのは、昭和四十二年のことでした。それに先立って、年度末から伊井先生に連れられて、高崎でのバレー部の合宿に参加させていただき、バレーボールの指導の何たるかを教えていただきました。そんなわけで当初私は、「高校の先生」としてよりも、「バレーボールの監督」としての自覚のほうが数倍強い、いや、それしかなかったといっても過言ではありませんでした。

当時の船高は、進学実績が上昇し、県下で五指に入る進学校になるうとする時期でしたが、三年間は副担任として諸先生方のクラス経営や生徒指導、校務の勉強をさせていただきながら、バレーボールの指導に全精力をぶつけておりました。

昭和四十二年は、三年生の岩佐、

小松原、升谷、成田、富松、大塚と、身長には恵まれないながら、動きの良い選手がおり、二年生の三橋、飯田、千葉、一年生の鮎沢、保科、竹本等の諸君でベストフォーは維持できました。この頃のコートは、今の本館の南側で、あまりしつこく練習をさせるもので、いじめに見えたのか、隣家のおばさんに「そんなにまでしなくてもいいのに」とにらまれたこともありました。

次の年は大型サウスポーの太和田に加え、萩原、日向、畔赫らが入学、前年の新人戦一回戦敗退から立ち直って、関東大会出場を果たし、新人大会では久方ぶりの優勝をすることができました。

昭和四十四年度は、太和田が巨砲に成長し、県総体は決勝で敗れたものの、インターハイ予選では優勝し、勇躍前橋に向かいました。太和田は二年生ながら県選手団の旗手に指名され、私も期するところがあつたのですが、予選グループ戦であえなく敗退、初めての県制覇で天狗になつていた鼻先を見事にたたき折られてしまいました。

四十五年は前年大量に入部した諸君が、河井、飯沼、渡辺らを残して大量退部、新入生も飯田、岩田、石崎、内田と少なく厳しい状況でしたが、何とか関東大会出場にはこぎつきました。

四十四年に待望の体育館が完成

し、練習環境は整つたにもかかわらず、四十六年以降、部員の退部が頻繁になりました。今振り返って考えると、練習試合に出かけることが少なく、もっぱら自チームの技能向上を目指した練習に力を入れていたため、相手の特徴や状況に即して対応する練習に欠けていたこと、やみくもに自分の経験してきたプレーを押し付けて、選手自身が自分で考えてプレーする嬉しさ、いろいろな技術を試行錯誤する楽しさ、たとえ裏方でもチームの一員としての役割を果たすことの喜びを味わせてやれなかつたことなどが、退部者が多くなつた原因であつたと思ひ当たります。当時の部員諸君にはすまないことをしと思つていきます。

当時すでに船高バレーボール部のOB会が二十年近く続いており、現役への指導や援助をしてくださつておりました。もつたないくも、新卒の私にはOBたちの熱い思いが判らず、練習ではとまじくさえ思えてしまい、以心伝心、それまで熱心にコーチや激励に顔を出してくれていたOB諸氏も足が遠のいてしまいました。自信過剰、自惚れ、それ以外の何物でもなく、本当に申し訳ないことで慙愧に堪えません。また、OB会が長らく守り伝えてきた歴代の資料・記録も私の時期に紛失してしまい、まことに申し訳ないことでした。そのOB会がいま現在も存続し、現役との交流を深めてくださっていることには、安堵とともに感謝の思いでいっぱいです。

無我夢中の三年間を経て、昭和四十五年、ようやく一年生の学級担任を命じられました。この学年を卒業まで、次いで四十八年の入学学年を二年間担任しました。私の教職生活三十八年の中で、学級担任をしたのは船高でのこの五年間と次の千葉市立高校での三年間、合わせて八年間しかありません。卒業まで担任したのは船高で一回、市千葉で一回の二回だけです。この学年には大変想い出深いものがあります。

当時は、一教室に五十人ほどが机を並べ、すし詰め状態、暑い時期などは個人的に、あるいは没個性的にもおりましたが、多くの生徒は勉強とスポーツや文化・芸術活動の両立を求めて熱中時代を過ごしていました。生徒同士、互いに認め合い励ましあう連帯意識は大変強く、夏の甲子園県大会でベストエイトまで勝ち進んだときは、自主的に欠席して応援に向く生徒も多数おり、先生方も黙認していたようなところもありました。またある日、教室の前後をそっくり入れ替えるいたずらがありました。怒り出す先生、反応を見定める生徒たちと、屈託ない学年でした。

学級経営と言えはるほどのことは何もできなかったように思います。生徒諸君の自治・自発性に任せて、やる気をそがないようにだけ気を付けました。といえは聞かえがよいですが、いわば放任状態、進路関係にしても本人・家庭任せ、まことに頼りない担任だつたと思います。

平成十七年、関係の皆様のご寛恕によつて大過小過ごもごの教職生活を全うすることができ、定年退

職。現在はご縁をいただいて通信制の「東豊学園つくば松実高等学校」に勤めておられます。この学校は、中学校でいじめや病氣、引きこもりなどに苦しむ一時の迷いから進路変更せざるを得なかつた子供たちに、やりなおしの機会を作ろうとするものです。これまでの経験と反省を生かし、私自身の《生き直し》とともに、最後のご奉公と考えて、もう少し頑張つてみようと思つていきます。

ほどなく創立九十五年を超えようという歴史とともに、近年、スーパーサイエンスハイスクールの指定や合唱部、クイズ研究会の活躍など、文武両道の活躍を続けている船高の益々のご発展を陰ながらお祈りいたしますとともに、同窓会の皆様



事業報告・事業計画と総会報告等

総会は8月3日に例年通り母校で開催されました。まず、平成25年度事業・決算報告及び平成26年度事業計画・予算が審議され、別表の通り承認いただきました。次に、平成32年の母校創立百周年に向けた同窓会の体制等を審議、準備として、平成27年度中に同窓会に実行委員会を立ち上げること、委員会には部会として「名簿作成委員会」「記念事業委員会」「祝賀委員会」(いずれも仮称)を

事務局から

平成32年・2020年は母校創立100周年となります。既に準備のために実行委員会の組織作り着手してありますが、記念行事等の企画はこれからとなりますので、100周年に同窓会ができること、やってみたいこと等々、ご意見、ご提言をお寄せください。春の同窓会は還暦を迎える学年が主管するイベントです。毎回300人を超える同窓生が一堂に会し、旧交を温め、母校を語り、親睦を深めています。平成27年は昭和48年卒の学年が幹事となつて会の運営に当たります。是非参加いただき、同窓会行事についてもご意見、ご提言をお願いします。学年理事は同窓会運営の要です。現在、次の学年で理事が選出されています。学年会を実施している方、卒業時に役員となつた

設けること、同窓会役員・理事がそれぞれの委員会を分担することとなりました。記念事業等は学校、PTA、同窓会が一体となつた組織を立ち上げ、取組むこととなりますが、会員の皆さんの絶大なご支援が事業の成否を左右します。ご理解、ご協力をよろしくお願いします。なお、昨年度退任された金子安雄前会長が名誉会長に推挙され、満場一致で承認いただきました。

方、この記事が気になった方、連絡ください。昭和56年、59年、60年、61年、63年、平成元年、平成3年以降。ホームページリニューアル 同窓会HPをリニューアルします。現在のhttp://homepage.nifty.com/funabog/は平成27年3月で終了し、http://www.dosokai.ne.jp/kenfuna/に移行します。新しいHPは3月初旬から運用開始予定です。E-mailに変更はありません。また、今後、この同窓会だよりはPDFに変換し、HPに掲載する予定です。このため、近況等投稿いただき、「おたより彼れ是れ」に掲載する場合、HPにも掲載することとなりますのでご了承ください。

平成25年度決算及び平成26年度予算

Table with financial data for 2013 and 2014. Columns include 26年度予算, 25年度予算, 25年度決算, 24年度決算. Rows include 1. 収入の部 (Revenue) and 2. 支出の部 (Expenditure) with various sub-items like 雑収入, 雑支出, 必要費, etc.

部活動報告

アーチエリー部

8月1日から4日まで、平成26年度全国総合体育大会アーチエリー競技大会が地元千葉県市原市で開催され、本校からは創部以来初めて女子団体チーム4名が出場しました。本校アーチエリー部は、校内での練習場所がなく、長い距離を射つためには近隣の私営練習場に向く必要がありませぬ。それゆえ、時間もお金も限られた状況での練習となります。しかし、そのような状況であっても選手たちは、決して練習環境を言い訳にせず、日々の練習の中で「今自分たちに足りない力は何なのか？」を常に問いながら、自分自身やアーチエリーというスポーツに真摯に向き合っていました。また、今まで行われていなかった夏の校外合宿や冬の基礎練習に特化した合宿を自らで企画するなど、「自分たちは絶対にインターハイへの切符を掴むのだ」という気持ちを部活全体で高めようと努力する姿も見受けられました。そのような船高生らしい主体的な姿勢が今回のインターハイ出場につながったのではないかと感じています。インターハイ本番では、強豪が集うハイレベルな全国大会の舞台で、団体予選29位という結果となり、決勝



トーナメントに進出することはできず、選手たちは非常に悔しうでしたが、その表情には確かな成長を見ることができました。また、選手たちの活躍を見た他の部員たちにも大きな刺激となり、3年生が引退した現在では、「先輩方の功績を無駄にしない。来年もインターハイに出場する」という強い決意のもと、日々の練習に取り組んでいます。今回の大会によって部員たちは、多くのことを学ぶことができ、ますます充実した学校生活を送る糧を得たように思います。最後に、大会参加に

あたり各方面で協力いただいた全ての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございます。(文責:アーチエリー部 顧問 羽山和弘)

母校の現況

【全日程】

運動系部活動の番号区分

- ①25年度新人大会
- ②26年度関東大会予選
- ③26年度県高校総体
- ④その他

○運動系部活動

野球

- ①秋季県大会 1回戦
- ②春季県大会 1回戦
- ③選手権大会県大会 ベスト32

陸上競技

- ①女子走幅跳 2位 喜多智世
- ②女子走幅跳 7位 喜多智世
- ③男子砲丸投 10位 横川大貴

水泳

- ①水球 4位 宮下彩季
- 競泳 女子200平泳ぎ 7位 河村美波
- ④水球 県高校選手権 4位 河村美波

サッカー

- ①県大会ベスト32
- ②県大会ベスト16
- ③県大会ベスト16
- ④高校選手権千葉県大会

柔道

- ①女子団体戦 県大会1回戦
- 男子団体戦 県大会2回戦
- 女子個人 2名県大会出場
- 男子個人 1名県大会出場
- ②女子団体戦 県大会ベスト16
- 男子団体戦 県大会1回戦
- 女子個人 2名県大会出場

剣道

- ③女子団体戦 県大会2回戦
- 男子団体戦 県大会2回戦
- 女子個人 2名県大会出場
- ④千葉県体重別選手権 島野美咲 出場

- ①男子団体 県大会2回戦
- 女子団体 県大会ベスト32
- ②男子団体 県大会1回戦
- 女子団体 県大会1回戦
- ③男子団体 地区予選敗退
- 女子団体 地区予選敗退
- 男子団体 県大会1回戦
- 女子団体 県大会1回戦

男子個人 大島悠太郎 県大会1回戦

バスケットボール男子

- ①②県大会1回戦
- ③県大会3回戦(ベスト32)
- ①②③地区予選敗退

バスケットボール女子

- ①県大会2回戦
- ②地区大会3位
- ③県大会2回戦
- ④松浦杯・船橋市民大会 準優勝

バレーボール女子

- ①②地区大会出場
- ③県大会1回戦

テニス

- ①男女 県大会出場
- ②男女 地区予選敗退
- ③男女 県大会2回戦

ソフトテニス

- ①男子団体 県大会2回戦
- 男子個人 井手・森脇組 県大会2回戦
- 女子団体 県大会2回戦
- 女子個人 杉本・築田組 県大会3回戦

卓球

- ①男子D 落合・前河組 県大会1回戦
- 女子D 荒木・橋口組 県大会1回戦
- 男子S 落合 県大会1回戦
- 女子S 橋口(ベスト32) 大塚 県大会1回戦
- ④東葛杯 男子 井手・森脇組 3位入賞

卓球

- ①男子D 落合・前河組 県大会1回戦
- 女子D 荒木・橋口組 県大会1回戦
- 男子S 落合 県大会1回戦
- 女子S 橋口(ベスト32) 大塚 県大会1回戦
- ②男子団体 県大会1回戦
- 女子団体 県大会1回戦
- 男子S 前河 県大会1回戦
- 女子S 橋口 県大会1回戦
- ③男子団体 県大会1回戦
- 女子団体 県大会1回戦
- 男子D 落合・前河組 県大会1回戦
- 女子D 荒木・橋口組 県大会1回戦

- ③男子団体 県大会1回戦
- 女子団体 県大会1回戦
- 男子D 落合・前河組 県大会1回戦

女子D 荒木・橋口組 県大会2回戦

女子S 前河 県大会1回戦

- 橋口 県大会1回戦
- 大塚 県大会1回戦
- 荒木 県大会1回戦
- 内山 県大会2回戦

バドミントン

- ①男子団体 県大会1回戦
- 女子団体 県大会1回戦
- 男子D 増田・松井 県大会1回戦
- 女子D 平澤・土屋 県大会1回戦
- 女子S 平澤・土屋 県大会1回戦
- ②男子団体 県大会ベスト16
- 女子団体 県大会ベスト16
- ③男子団体 県大会ベスト16
- 男子D 増田・松井 県大会1回戦
- 女子D 平澤・土屋 県大会1回戦

アーチェリー

- ①女子団体 2位
- ②女子団体 3位
- 女子個人 中野 遙 優勝 関東大会出場

ダンス

- ④千葉県ダンスコンテスト出場
- ①新人大会出場
- ③県総体登山大会
- 男子団体 3位 関東大会出場
- 女子団体 3位 関東大会出場

文化系部活動

- 合唱 関東合唱コンクール 銀賞
- 千葉県アンサンブルコンテスト
- 女子チーム 金賞
- 男子チーム 金賞
- 第34回定期演奏会開催
- ヤングフラハ2014 金賞
- 審査員特別賞 優秀指揮者賞
- 全国高総文祭茨城大会出場(県代表)
- 千葉県合唱コンクール 銀賞

- 女子D 荒木・橋口組 県大会2回戦
- 女子S 前河 県大会1回戦
- 橋口 県大会1回戦
- 大塚 県大会1回戦
- 荒木 県大会1回戦
- 内山 県大会2回戦
- ②男子団体 県大会1回戦
- 女子団体 県大会1回戦
- 男子S 前河 県大会1回戦
- 女子S 橋口 県大会1回戦
- ③男子団体 県大会1回戦
- 女子団体 県大会1回戦
- 男子D 落合・前河組 県大会1回戦

オーケストラ 第38回定期演奏会

全国高等学校選抜オーケストラフェスタ

- 全国学校合奏コンクール千葉県大会
- 千葉県高等学校連合音楽会
- 船橋地区音楽会
- 東船橋駅前クリスマスコンサート
- オーケストララジオイントロコンサート

将棋

- 千葉県総合文化祭将棋大会
- 男子団体戦 小川・小池・寺尾組 9位
- 男子個人戦A級 菅井健夫 28位
- 小池一輝 31位
- 高校竜王戦千葉県大会
- A級 仁科佑太(22位) 寺尾浩輝(27位)

美術

- 県総合文化祭美術工芸作品展出品
- 全国大会千葉県代表 小野寺美紀
- 船橋地区高校美術工芸作品展
- 全国高等学校総合文化祭茨城大会
- 書道 第63回千葉県中小高校席書大会
- 千葉県日報社賞 神田花菜子 飯塚瑞帆
- 第19回日本高校大学生書道展
- 書道展賞 安達郁哉
- 優秀賞 小杉洋平
- 県総合文化祭書道作品展出品
- 茶道 第23回県立交流茶会参加
- J.R.C たちばな祭にて
- 日本指導者協会のための募金
- 演劇 春季地区発表会
- 内山媛理作「ねじれたスプーン」で出場
- 鐵道研究 たちばな祭にて鉄道模型の運転・駅弁販売
- 佐倉草ぶえの丘秋祭りにて模型運転会実施
- クイズ研究会 第34回全国高等学校クイズ選手権
- 高林秀・國木聡志 全国大会出場
- アメリカ・ニューヨーク州で行われた
- 決勝戦に勝ち残り3位となった。
- ジャズバンド たちばな祭・合唱祭にて発表 定期演奏会
- 東船橋駅クリスマスコンサート
- コンピューター スーパーコンピューティング コンテスト出場

映画鑑賞

- たちばな祭にて冊子配布
- 現代視覚文化研究
- たちばな祭にて冊子発行
- 4・6・7・9・11・12月に冊子発行
- 歴史研究
- 第35回生徒歴史研究発表大会
- (千葉県高教研歴史部会主催) 5名参加
- 写真 たちばな祭にて作品展示、冊子発行

○その他

- 放送委員会 第61回NHK杯全国高校放送コンテスト
- テレビドキュメント部門出場
- 全国高等学校総合文化祭茨城大会
- 朗読部門出場

【定時制】

- 平成25年度 千葉県高校定通総合文化大会
- 書道 金賞 小林奈々実
- 美術 金賞 小林奈々実
- 銀賞 藤原礼奈
- 千葉県高校秋季定通体育大会
- サッカー 優勝
- バスケットボール男子 優勝
- バスケットボール女子 3位
- 剣道 男子個人 4位 伊藤悠希
- 卓球 男子個人 準優勝 藤原大成
- バドミントン 男子S 準優勝 木本冬威
- 男子D 準優勝 木本・大西
- 関東高校定通サッカー大会 3位
- 平成26年度 千葉県高等学校春季定通体育大会
- 剣道 女子個人 準優勝 渥美愛永
- ソフトテニス 女子個人 準優勝 湯浅・小林
- 全国高等学校定通体育大会
- 剣道 女子個人・団体千葉県県代表
- 渥美愛永
- ソフトテニス 女子個人 出場 小林美保

おたより彼れ是れ

●小井土 清 (昭和25年卒)
「同窓会だより」読む度に、第二回卒業生の時代は遠くに過ぎ去ったと、つくづく考えさせられる。

●鶴岡 義明 (昭和40年卒)
今年毎年11月の第二火曜日に船高の同窓会ゴルフコンペを総武カントリークラブ印刷コースで行う事を決定しました。2014年は11月1日(火)です。より多くの参加者を希望します。

●辻丸 卓美 (昭和42年卒)
「御成街道コミ拾い駅伝」が第二回春秋に開催されています。参加者募集中!!

●小林 洋子 (旧姓露崎) (昭和46年卒)
昨年は幹事学年として、同窓会に関わり、船高の歴史を改めて感じました。春の同窓会も楽しみにしています。

●牧野喜久子 (旧姓伊藤) (昭和35年卒)
職場を離れて2年経ちました。ようやく日々日曜日に慣れてきました。庭、借りてる畑、孫との時間がたれ、自分自身も思っていないのが反省点で、72才にしてまだまだうらうらしています。元気です。

●木村 久枝 (旧姓細野) (昭和32年卒)
「同窓会だより」の編集・発行、いつもありがとうございます。また、このたびは、生物部OBの同窓会の記事と3枚もの写真を載せていただき、感謝申し上げます。部員OB一同感激して、2014年2月9日に再び集まることになりました。パッと決まってしまうと、みんな、よほど嬉しかったので、お祈り申し上げます。

●田所眞紀子 (旧姓神谷) (昭和58年卒)
昨年の「春の同窓会」では、卒業30周年というところですが、同期生が集まり、野田前理事長を囲んで写真を撮るなど、集まることができ、大変うれしかったです。

●堀 秀基 (昭和58年卒)
Face Bookを通して、同期や同窓生の方と知りあえるのは不思議な感じがします。でも、これも今時のものとして素直に受け入れて楽しんでいきます。さらに、「友達」が増えること希望しています。

●奥澤 清美 (旧姓佐藤) (昭和29年卒)
私が在籍していた時に校歌、制服が出来、山田耕柞 サトウハチローにインスピレーションを受けた。年子の兄も船高で楽しんでいた。女子の制服のファッションショーもあったのですよ。私が着てののぎままだ

●榎本 鈴江 (旧姓川端) (昭和43年卒)
滋賀県に住んで早や30数年、すっかり関西のオバチャンになってしまいました。日常会話ももちろん関西弁、本当にありえへん!

●須合 賢一 (昭和61年卒)
同窓会だよりを送って頂きありがとうございます。今回同窓会探訪は、宇山先生で、数学のわたりやすく、楽しい授業を思い出しました。とても懐かしく拝読致しました。

●坂下江字子 (旧姓三國) (昭和49年卒)
年と共に解らない人の名前が増えて残念です。又、定時制の方たちはどの様子がの淋しいものがある。しかしながら定時制の人数があるという事は一生けん命勉強するという人達はまだいるんだと思っ張ってほしいです!

●小林 宏年 (昭和47年卒)
地元的女子サッカーチーム(戸木南本ポールFC)の指導をしています。ヤングなでしこの一員となっています。2020年東京五輪に教える子がジュニアにたてるよう、サッカーの心に火をつけていきます。

●長嶋 毅 (昭和38年卒)
我々38年卒の3Bクラスでは、ほぼ月1回程度のペースでゴルフ会、飲食会等、友好を深める集いを楽しんでいます。

●野口 紀雄 (昭和26年卒)
毎年10月開催の同期会、昨秋は恩師須田義男先生の卒寿の祝い兼ね17人が先生を囲みました。生徒も80歳代となり、記念写真では師弟の別がつかせません。いっつも集まることなのか挑戦の思いだけが旺盛で、母の老い、自然がいっぱいの生活をエンジョイしています。

●川田千恵子 (昭和41年卒)
浜松に移って7年目に入り、光産業創成大学大学院で6年が経ちました。今年の9月末で卒業予定でしたが、卒業論文が終わりませんでした。いよいよ大学に濱学業を続けることにしました。すっかり浜松の住人になり、自然がいっぱいの生活をエンジョイしています。

●久保 和秀 (昭和44年卒)
ねんりんピック剣道の部や大学剣道部OBの大会に出場すると、60歳代前半ではまだ若手扱いです。

●石井て子 (昭和28年卒)
ふだんは、埋蔵文化財発掘現場で泥を掘りあげたりして、顔は真っ黒に日焼けしています。

●森田 進 (昭和34年卒)
野田前理事長、本当にお疲れ様でした。「火中の栗」を拾われ、マイナスからのスターでしたが、よく頑張られたと思います。ご活躍をお祈りいたします。

●高梨 浩子 (旧姓高橋) (昭和35年卒)
70才を過ぎますが、だいたいは足腰の衰えを感じつつ、日々いつの日か出陣できる日を楽しみに致しております。私のおかげこの度、(2

年前)自分の母校へ教師として関わっており、異状況です。他事ながら一筆かかせていただきました。

●中村 浩吉 (昭和39年卒)
同窓会だよりを拝読しました。「おたより彼れ是れ」に私の中学校(海神中)の恩師の名を発見！S26年卒、宮本俊作様は、S32/S31年頃海神中で教鞭を執られておられた大先輩では？

●守山眞子 (旧姓木村) (昭和53年卒)
同窓会だより、毎年楽しみにしております。ありがとうございました。クイズ番組に参加された後輩達にも、「お母さんの母校だよ」と言いながら、息子と応援しています。

●小西みつ子 (旧姓田) (昭和41年卒)
夫が3月に退職予定ですが、転換の年となりそうです。しかし、高校1年から勉強を始めた、整体法を学びつつ、介護福祉士として、働き続けています。整体法を隠し味として活用しながら。

●石田 貴 (旧職員)
趣味、特技の伸展に毎日多忙の生活パターン。詩吟、民謡、木彫、師について十数年又は二十余年、受講と各種発表会、作品展示に参加。

●安川 一 (昭和41年卒)
宮城県塩釜市に住んでいて、なかなか千葉へ出かけられませんが、震災の復興もまだ目標です。同窓会だよりを拝読し、少しでも昔の気力、体力をいただいてがんばっていきます。

●岩瀬 誠男 (昭和42年卒)
私も世界史の三橋先生に大変お世話になりました。三橋先生の世界史は本当に素晴らしいです。三橋先生に敬意を表したいと思います。三橋先生のおかけです。ありがとうございます。

●沼田佐智子 (旧姓田原) (昭和34年卒)
マンション住まいで親しくなった人から「どちらの出身？」と聞かれる時があるのですが、以前は「野田前理事長と同じ船橋」と自慢していたのです。最近では「ふなつし」の船橋です。と答えられます。そうですと多少なりとも話が盛り上がります。

●植草 茂也 (昭和48年卒)
近年地域同窓会(?)を開催しています。夜な夜地域同窓会(?)を催しているの毎日大変です。年をとったと、夢のように過ぎた日々がなくなつて、ついでと思えるときがあるのだと思います。iPhoneにテキスト21の写真をアップします。

●新開 重雄 (旧職員)
相変わらずデイズ21を催しているの毎日日々がなくなつて、ついでと思えるときがあるのだと思います。iPhoneにテキスト21の写真をアップします。

●草香 智三 (昭和36年卒)
H25年10月30日に初めて1年B組のクラス会を担当岩崎照先生(旧姓井井先生)を交えて開催、18名の方が出陣、大変なついで、楽しく、盛り上り、近況報告等、52年振りにお会いした方もおりました。あつという間に時間は過ぎ、最後は「校歌」で締めくくりました。

●田島 徳子 (旧姓大川) (昭和28年卒)
長崎に来て早や52年。昨年、鳴瀬に引越ししました。こはつて、ショールが西洋の文明をたえ、学園のあったところ。部屋の窓からは、世界の三大夜景の一つとなった長崎のすばらしい夜景が見えます。い

●風間 勝也 (旧職員)
ハンドボール少年団の子もたちから元気をもらって、市内のスポーツ行事に参加して、さらに総合型地域スポーツクラブの創設をめぐり、楽しく、忙しくしています。

●佐藤みどり (旧姓田中) (昭和56年卒)
娘が結婚し、東船橋にお移りです。船高の脇を通ることが増えました。母校の活躍の活躍、卒業生の活躍を知ると誇らしいです。

●永原 敏博 (昭和49年卒)
本年7月に、オーケストラ部の第37回定期演奏会、8月に船高オーケストラ部のOBを中心とした「たけな管弦楽団」の第7回定期演奏会を聴きました。オーケストラ部の部員が多さにはびっくりしました。たけな管弦楽団のトラディショナル担当の長谷川君が、オーケストラ部のOBの方は、長谷川君へ連絡してあげて下さい。

●平林瑞美子 (旧姓今村) (昭和34年卒)
足からおどろけるので、ウオーキングフィットネスを頑張っています。最後まで自分の足で好きな所に駆け戻したきりにならない様に願っています。

●高橋 武夫 (旧姓立石) (昭和19年卒)
夜学はたいへんだった。今思えばの事である。船中より中大へと進んだ若き日、あころから人生あつという間、まるでこの間の事のようにも思え、イヤまた永くもありか、今も頭だけはしっかりとツモリ、

●奥永 俊哉 (昭和58年卒)
毎年年末に頂く「同窓会だより」は自身にとってはなくてはならない心の拠り所となっております。2013年12月の恩師探訪に寄稿された宇山邦彦先生のお顔を卒業後31年振りに拝見しました。文系学部に進んだ小生ですが、先生が最後の授業をおつしやった「辛明になつて下さい」というお言葉、今でも鮮明に覚えています。宇山先生、おかげさまで幸いに50歳を迎えました。ありがとうございます。

●谷嶋 雄雄 (昭和24年卒)
戦後学制変更の混乱期、東京の高校へ転校。千葉大医を昭和34年卒。あのはな同窓会(千葉大医)名簿に船高出身者が随分入っていました。今年の2月に11回春会を迎えました。また現役内科医をやり、千葉山王病院附属の看護専門学校

の校長を張っています。併設中の3年間が

なければ現在がありません。伊藤 正子 (昭和37年卒) キング(季節は忘れましたが)、苦しかったその山登りが、その後の私の青春となりました。古橋を迎え、4階の我が家で、垣間見ると高木山と、その周辺の山並みを見ながら、もう一度、何とか歩きたいと思いついて、レニングに願っている毎日です。

●柳本 勝 (昭和42年卒)
年を重ね、もうそろそろ花鳥風月を愛で、粋で風流で枯れた時を過ごしたいと考えていますが、ビジネスの世界でいよいよ変わらず生きたい。時を過ごしてあります。皆様お変わりありません。

●武田 宏子 (旧姓清家) (昭和37年卒)
自分へのご褒美。還暦祝いにホノルマルマラソン参加。古希祝いに古希コンサートを開催。7年後の喜寿祝いを考え中です。

●片桐 順子 (旧姓東田) (昭和37年卒)
母校創立百周年、東京オリンピックと共に、出席のしなひの迷い、ここまで生きてこられたことに感謝の気持ちをもって出席した70才の同窓会、卒業後はじめて出席したという小西さんが、又、わが家と15分位のところに40年近く住んでいらつしたとビックリ。いろいろの感動があり、やはり同窓会には出陣方がいいです。清家さんの高希コンサートも参加できたし。

●海老原孝司 (昭和43年卒)
2011年2月に現役引退し、現在は野菜づくり、温泉、キャンプ、カヌーに伝統芸能鑑賞と、全国各地を遊ばまわっております。

●島崎 喜一 (昭和48年卒)
48年卒学年同窓会は2月11日です。同封ハガキ必ず申し込んで下さい。会報が届いていない人がいればハガキにその旨、または同窓会宛メールを。

編集後記

よく「歳をとると時間が経つのを早く感じる」と言われますが、私も最近はずっと時間の流れを早く感じます。そんな話をするとある人に「毎日忙しく充実しているからじゃないか」と言われました。そう言われて考え、確かに仕事量も多く、日々「忙しい」とは感じますが、さすがに「充実」しているかと聞かれると疑問符が浮かびます。今の自分について「充実している」とはどういうことを言うのか、ふとした疑問から、自分の人生について考えるよい機会になりました。

三十代残りの日々を「充実した」ものにする、年代に頭張ろうと、皆既月食を見ながら誓いました。同窓生の皆様の日々がより充実されることをご祈念申し上げます。(平成八年卒 M)